



和歌山県で植木の卸売業や庭の工事などを行う大西農園種苗場のアトツギ、大西奈菜子さん。アトツギ高校生として、自らも事業を立ち上げながら家業の新しい形を模索し、第5回アトツギ甲子園では準ファイナリストに選出されています。今回は、大西さんの家業にかける想いや今後の展望について取材しました。

1. スタッフとの関わりから家業への熱意を

ご自身がアトツギであると意識したのは、どのタイミングからですか。

自分が跡を継ぐ存在なのかもしれないと思ったのは、保育園の卒園式で「大きくなったら植木屋さんになりたいです」と言った時でした。ただ、その後は別の道を考えた時期もあり、本格的に家業を継ごうと決めたのは中学校3年生の時です。幼少期の頃からよく会社で遊んでおり、親戚のお兄さんがたくさんいるような感覚で、スタッフが好きだったんです。それも影響して、一緒に仕事をしようと思ったことがきっかけでした。

最近特に印象に残っているのが、家業の新年会で社員の方が言っていた言葉です。

当社で新規事業に取り組む話が出ており、既存事業とのバランスに悩んでいた時、「新規事業は私（大西さん）や代表に任せます。自分に既存事業を任せてもらえるなら、今後10年で絶対に伸ばせるから1人でもやる」と言ってくれました。家系とは無関係でも、そこまで覚悟をもって言ってくれる人がいるんだと驚きました。「もしかすると、この社員の20

年後は私にかかっているのかもしれない」と思うと、私が新規事業に取り組みたいという想いが強くなりましたね。

ご実家は和歌山県にありますが、なぜ現在は岡山県に住んでいるのですか。

私は通信制高校に通っていて、本校が岡山県にあります。学校に通うことが好きだったので「できるだけ頻繁に通いたい」と親に相談すると、「引っ越してみたら？」と言われ、岡山で一人暮らしを始めました。

和歌山県にも通信制高校はある中で岡山県の高校に決めたのは、「他の人と同じでは生きていけない」「他の人と違う経験がしたい」という気持ちが強かったからです。父からは「起業家になれば後から何にでもなれる」と言われていて、その影響もあったかもしれません。

2. 「普通の道は嫌だ」と起業へ

ビジネスを作ることにに対する関心は、いつからあったのですか。

私の世代はYouTubeなどが身近にあり、中学生くらいから起業家の存在は知っていました。漠然と普通に就職するのは嫌だと思っていたりもしましたね。

コロナ禍で生活が変わったことも関係があるかもしれません。当時は家にいる時間が多く、様々な情報が入ってくる中で、ベンチャーや起業家に興味や憧れを持ちました。「ありきたりな生活の仕方や、現在では良いとされる進学の仕方は、今後は通用しなくなるのだろう」と思いました。

イベントなどでスタートアップの方々と会って、自分の中で新事業と家業の位置付けは変わりましたか。

岡山の「ももスタ」で行われたイベントに参加してお会いしたアトツギの方の影響は大きかったと思います。そこから変わっていきました。アトツギで家業に取り組みながら、新規事業で起業もしている方に初めて出会い、そういった形もあるんだと知ってびっくりしました。

その形を知って、家業に対して向き合う時間が増えたんです。それまでは家業とは関係ない活動が続けていたのですが、どこかで「どうやったら家業と繋がるか、自分は家業で何がしたいのか」を考えるようになり、自分の中で家業と起業の2軸が存在するという感覚が生まれました。



3. アトツギ甲子園でアイデアを形に

アトツギ甲子園に出場するまでは、どんな過ごし方でしたか。

大会に出場する以前から、もともと家業には「新しいことを始める文化」があり、私自身も「家業の中で新しいことがしたい」という想いがありました。

アトツギ甲子園の出場を決めたのは、一度大会に参加して、自分の想いを目に見える形にするという過程が必要だと感じたからです。また、様々なイベントに参加する中で、アトツギが集まる場所に行くことも大事だと考えていました。「高校生の今から応募ができるのに、参加しない方がもったいない」と思っていましたね。

大会が近づいてきたころに、「壁打ちをしましょう」と岡山のアトツギの方に声をかけてもらい、自分の出場にそこまで真剣になってくれる人がいることにも嬉しくなりました。

出場を決めたときのご家族の反応はいかがでしたか。

「頑張って」と応援してもらいました。

プレゼンのプランも大まかに聞いてもらって、「いいんじゃない」という反応でした。ただ、基本的に私はいつも事後報告で、軽く了解だけ取るようなスタイルなんです。大会当日も会場まで見に来ることはなく、どこで開催されていたのかも知らないと思いますね。

アトツギ甲子園を経験して、良かったことや刺激を受けたことなど、感想を教えてください。

高校生というポジションが活きる場所があることに気が付きました。

また、近畿地方のアトツギには知り合いがいなかったのですが、皆さんいい人達ばかりで、知り合いも増えました。コミュニティが強いのはすごくいいことだと考えていて、建設会社や金物屋など、自社とリンクできる職業の人も多いんです。リンクすることで可能性は広がるので、ここをきっかけに色々な人と一緒にできる事業を作りたいと思いましたね。

4. 新規事業の知識という得意分野を活かして

ご両親からは、跡を継ぐことに関するコミュニケーションはありますか。

両親から「継いでほしい」と言われたことは一度もありません。

私が代表になることはそこまで考えておらず、「私には私なりの家業との関わり方がある」という考えを分かってくれています。

新しい可能性を作っていくところを期待しているのかなと感じています。事業の中心には卸しがあって、それを繋いでいくために庭の工事や小売業を展開してきたので、そういった拡げ方をしていきたいと思っています。

一緒に会議に出るようになると、両親は新しいことをしたいのに、ビジネスの立ち上げに関する知識に疎いことに気付きました。既存の取引ではプロフェッショナルなのですが、起業

家が持っているような最新のテクノロジーなどに関する知識は自分の方が持っている場合もあるため、チャットツールの導入や事業計画書に関する相談をしています。世の中の流行や若い人に対する商品については私の方が詳しいし、仕入れ先・卸し方・業界の流れなどは親の方が分かるので、お互いに補完関係を築いていますね。

家業の中では、大西さんは現在こういった立場なのですか。

役職としては、父からの勧めもあり「アトツギ高校生」と名乗っています。

仕事に関してはかなり自由に動かしてもらいながら、メールのドメインを取得したり、名刺の作成といったこまごました仕事もしています。

5. 和歌山県で「かけ算」の新しい形を



岡山県と和歌山県のコミュニティを比べたときに、和歌山県の中でやりたいことはありますか。

和歌山県にもコミュニティは必要だと思っています。地域全体を盛り上げる必要もあるし、地域にいるアトツギの方や昔から続く産業に関わる方々、和歌山県で面白いことがしたい方々と一緒にコミュニティが作りたいですね。

和歌山県でのイベント開催に携わらせてもらうこともあり、職人の文化とスタートアップを繋ぐことができれば、ローカルから全国に広がる可能性を秘めた場所が作れると思うんです。

和歌山県の北部には、他社と協業することで発展するような業態の企業が多いと感じています。1つの業種では完結しないような職人の方は、コミュニティがある中で回っている商売になるので、そういったかけ算の新しい形を私たちのような若い世代で作っていったら面白いですね。

6. 遠隔地からでも家業に携わる体制作りを

高校を卒業後は、どんなキャリアを考えていますか。

関東の大学への進学を希望して大学では自分の可能性を見てくれる人と一緒に新しいことに取り組みたいです。また、声をかけてくださっているスタートアップ企業があるので、一緒に仕事をさせてもらおうと考えています。ビジネスの面で戦略的に考えられるようになるために、インターンを経験する予定です。

ただ、重心は家業に置こうと考えています。

二足の草鞋を履き続ける働き方をすると思うのですが、新しいことを始めたとしても、軸足は家業に置いて活動していきたいです。

関東に住みながら和歌山県の家業とやり取りするということはかなりのハードワークが予想されますが、そこに対する不安や対策はありますか。

現地にいなくても大丈夫なように、残りの1年で準備をしようと考えています。

新規事業として、ジュエルオーキッドという蘭の販売を考えているので、残り1年でしっかりと事業としての土台を作りたいです。ある程度先が見えるようになると、さまざまな方と協力して、家業の1つの仕事を切り取って担当していけば無理なことはないと思います。

他のアトツギに向けてメッセージをお願いします。

私もそのうちの1人なのですが、「学生起業家」はもうたくさんいてそんなに珍しくない存在なのかなと思っています。ですが、学生のアトツギはまだ少ないんです。学生アトツギの集まりを作って、何か一緒にできたら楽しそうだなと思っているので、学生アトツギで興味のある方は、ぜひご連絡いただけると嬉しいです！